

吴海京◎编著

# 资治通鉴



# 续纪

一

以铜为镜 可正衣冠  
以史为镜 可知兴替  
以人为镜 可知得失



中国文史出版社



014037703

K204.3

51

V1

资治通鉴  
续纪

吴海京◎编著



中国文史出版社

K204.3



北航

C1725826

51  
V1

## 自序

余惟盛世修史，向我华夏旧制。古者左史记言，右史记行，圣人立教以言，而于史籍，其义亦然。荀卿有云：“见善，修然必有以自存。见不善，愀然必有以自省也。”孟子曰：“天下之本在国，国之本在家，家之本在身。”顾修身、治国，其本一也。故鉴往事得失、善恶所出，考其盛衰之由，品其条教短长，归之于治理，以为议论箴谏，良史之所为。

述者温公据《左氏》之范，遍阅旧史，网罗简牍，“删削冗长，举撮机要，专取国家兴衰，系生民休戚，善可为法，恶可为戒者”，为《资治通鉴》一书，其间穷十九年之之力，焚膏继晷，一意其作，增删五六，其意盖考先之行事，论昔功过，以古讽今，裨益治道也。后世据为经典，时进讲筵，国治用益，民承其惠，斯温公不朽之功。

余幼资性迟钝，于学术一无所长，独嗜读史，二十四史，稍稍通览。于通鉴一书，反复阅十遍不厌。其书言简意赅，文辞典雅，体大思精，诚贯绝古今之作。然每至卷末，意犹未尽，久置而不忍罢。补续之作，虽不乏大家执笔，名家襄助，然叙事繁冗，文笔差强，至粗精不伦，章法微异，美中不足者犹多，与通鉴初旨相去稍逊，每阅之颇费神思。而宋后诸史又皆浩瀚，卷帙百出，识见各异，即专业治史，非穷年累月，迨不能遍一，况于常人，何暇周览！

于是彷徨再三，敢攀先贤，一仿温公体例，取其要旨，用其笔法，作通鉴续纪，盖承温公前作，参编年诸书，考正史杂抄，袭后世研究心得，照今人拾遗之作，前后辨正，删冗用简，取其军民政治、利弊得失利于治者，贯穿成文，编作一书，以年为纲，以事为目，自宋建隆元年始，至清宣统三年十一月止，凡历年九百五十三，作卷三百三十八，附录二，宋纪一百十五，元纪三十六，明纪八十五，清纪一百，字数四百余万。值世承平，文史蔚兴，遗文秘册，兼取中外之用，闻见日宽。余虽术业不专，研习尚浅，然参古人前作，取其考证之功；用今世成果，采其博览之广；汇集百家之长，得以差次成文，事目粗备。自癸未年始，至癸巳年止，前后凡历十年，七易其稿，始成是书。

夫以铜为镜，可正衣冠；以史为镜，可知兴替；以人为镜，可知得失。余不自量力，冒然继往圣绝学，撰续貂之作，盖效“鉴前世之兴衰，考当今之得失，嘉善矜恶，取是舍非”之意，使后人得通览诸史，融合古今，知前世忠奸贤恶，厥厥然有安危之思，以期传我泱泱文明，袭我蔚蔚华风。庶几我辈可无愧于先贤，无辱于后世。顾余殚精竭虑，虽自信可差胜毕夏，然一介布衣，学识粗陋，精力有限，或以司马相期，则余何敢。自惟韶华易逝，岁月将老，悠然已无闻达之志，而有遁世之想，但得优游于市，以是书与读者共襄文史之盛，为先人执鞭坠镫，余愿足慰矣。

本书刊印之际，受到光明日报社，浙江省委宣传部、社科联，绍兴市委宣传部、社科联，诸暨市委宣传部、社科联，诸暨市委政法委，诸暨市陈宅镇党委、政府及杨永水先生、王澍先生之帮助支持，在此一并鸣谢！

吴海京

癸巳年九月于诸暨

## 凡例

按古先贤修史例，用《资治通鉴》体，取其军民政治、利弊得失且有利于治者，重其兴衰治乱，参用春秋笔法，以寓褒贬，力求史实精练、详实，文笔流畅，可读性强。

所引先取正史（含《清史稿》）、实录，次取各类编年、本末诸书，参诸野史、杂记、今人考古等，博采众书，考其异同，不求广博，务使史事连贯完整准确而已。其有隐晦、歧互不必辨明后取之，其不能明者仍存疑，不妄取也。今人研究已明晰者取之。

本书非学术专著，盖考往事得失，裨益治道，故旨在融会贯通，以便读者省览。而诸朝原始史料浩如烟海，难以遍览，若仿《资治通鉴》考异例，势难遍及。且今之史家旁征博引者甚众，详实远矣，故省考异不作。

所取史料，数不胜数，若注其出处，更增繁冗，故不另行注明出处。

全书按诸帝纪事，卷不至十者，以上下分之；卷十者，以天干分之；卷过十者，以数分之。卷目标以年月，以古干支名之。

全书以宋、元、明、清纪年，宋高宗虽尝称臣于金，然有宋一朝，皇统不绝，故仍以之纪年；德祐元年，宋统虽仍，然境土大蹙，几已不国，且寻时而灭，故以此年为元纪年。元惠宗北奔、明太祖即位之年，元统虽存，其时明实主中国，故以明为纪年，元则用敌国体，称元主；元益宗后帝号犹存，然其制如昔之匈奴、突厥，故用《资治通鉴》记外夷体。明庄烈帝之崩，南明继续诸帝相继被掳，非宋之南迁可比，故以清为纪年，南明不用敌国体，称明帝。西夏虽居西北一隅，然与辽、宋、金相抗二百余年，用敌国体，称夏主。

诸藩高丽袭用中国年号，称国王；交趾自建国号，时臣时服，故叙其本国事称本国号，叙与中国交通事，称国王。其国主有本名、入贡名，两存之，与中国交涉事用入贡名，于本国事用本名。

卷目皇帝谥号，宋元二朝仍其全称；明清二朝，谥法与宋元有别，独取其最后一字。

凡封王者皆书，公、侯以其功业著者书，其卒亦然。迁官，书相、枢

及犹知名者，其卒，则书首相、首枢及犹知名者，卒时有谥号者注其谥，有封号者，以谥入其封。

凡人名首次出现，标以籍贯，未知名者省之。蒙古、女真等标以部族，及清称旗制，标以旗名，或迁入中土者，仍以其地名注之。人名姓氏同载，蒙、藏、畏兀儿或无姓或姓不常用，独注以名，有姓者于首次出现时标注之；而其内附者皆有姓，仍以姓标注。金俗称姓，清俗不称姓，按二朝实系一族，仍皆称姓以一之，姓佚不可考者注其官位以明之。宗室不称姓，注以爵，无爵者注官位。

日食悉书之，地震、天文、灾异书其著者。

皇帝巡幸书其著者。

年月日首标以春夏秋冬，次则月、日，日不能定标以是月，月不能定标以是春、是夏等，又不能定者，系以是年。

旧史凡民起为变多称贼。今按民之为变，有为劫掠，亦有为激变、胁迫者，皆称之为贼，殊过为贬。今用中性体，称敌，而言辞、奏章者仍其旧。其小股啸聚山林、劫掠为生者仍谓之盗，余则视其素行而称民、寇、匪、贼等，以示公允也。

诸史参诸外书者，其西元转诸中历，以求划一。

地名、人名诸书所载不一者，从其通说。

《资治通鉴》记辽初事迹不详，今取其辽应历十年前史为辽初述略，附于篇首。

中华民国以阳历元旦纪年，故本书所述至民国元年元旦前一日止。

《资治通鉴》多史评，本书略之，但取前史之评论犹精者附之于篇，余仍寓褒贬于笔法，留后人自评之。

## 目 录

自序 .....	(1)
凡例 .....	(1)
卷第一 补《资治通鉴》附录一 .....	(1)
卷第二 补《资治通鉴》附录二 .....	(13)
卷第三 宋纪一 .....	(25)
卷第四 宋纪二 .....	(40)
卷第五 宋纪三 .....	(52)
卷第六 宋纪四 .....	(65)
卷第七 宋纪五 .....	(77)
卷第八 宋纪六 .....	(89)
卷第九 宋纪七 .....	(103)
卷第十 宋纪八 .....	(116)
卷第十一 宋纪九 .....	(129)
卷第十二 宋纪十 .....	(142)
卷第十三 宋纪十一 .....	(155)
卷第十四 宋纪十二 .....	(168)
卷第十五 宋纪十三 .....	(181)
卷第十六 宋纪十四 .....	(194)
卷第十七 宋纪十五 .....	(209)
卷第十八 宋纪十六 .....	(222)
卷第十九 宋纪十七 .....	(234)
卷第二十 宋纪十八 .....	(247)
卷第二十一 宋纪十九 .....	(259)
卷第二十二 宋纪二十 .....	(272)
卷第二十三 宋纪二十一 .....	(285)
卷第二十四 宋纪二十二 .....	(298)
卷第二十五 宋纪二十三 .....	(311)

---

卷第二十六	宋纪二十四	(324)
卷第二十七	宋纪二十五	(338)
卷第二十八	宋纪二十六	(352)
卷第二十九	宋纪二十七	(366)
卷第三十	宋纪二十八	(379)
卷第三十一	宋纪二十九	(392)
卷第三十二	宋纪三十	(405)
卷第三十三	宋纪三十一	(418)
卷第三十四	宋纪三十二	(430)
卷第三十五	宋纪三十三	(443)
卷第三十六	宋纪三十四	(456)
卷第三十七	宋纪三十五	(469)
卷第三十八	宋纪三十六	(482)
卷第三十九	宋纪三十七	(495)
卷第四十	宋纪三十八	(508)
卷第四十一	宋纪三十九	(521)
卷第四十二	宋纪四十	(535)
卷第四十三	宋纪四十一	(548)
卷第四十四	宋纪四十二	(562)
卷第四十五	宋纪四十三	(575)
卷第四十六	宋纪四十四	(588)
卷第四十七	宋纪四十五	(601)
卷第四十八	宋纪四十六	(615)
卷第四十九	宋纪四十七	(627)
卷第五十	宋纪四十八	(639)
卷第五十一	宋纪四十九	(651)
卷第五十二	宋纪五十	(664)
卷第五十三	宋纪五十一	(676)
卷第五十四	宋纪五十二	(689)
卷第五十五	宋纪五十三	(703)
卷第五十六	宋纪五十四	(716)
卷第五十七	宋纪五十五	(730)
卷第五十八	宋纪五十六	(743)
卷第五十九	宋纪五十七	(757)
卷第六十	宋纪五十八	(770)

---

卷第六十一	宋纪五十九	(783)
卷第六十二	宋纪六十	(797)
卷第六十三	宋纪六十一	(811)
卷第六十四	宋纪六十二	(824)
卷第六十五	宋纪六十三	(837)
卷第六十六	宋纪六十四	(850)
卷第六十七	宋纪六十五	(863)
卷第六十八	宋纪六十六	(876)
卷第六十九	宋纪六十七	(889)
卷第七十	宋纪六十八	(902)
卷第七十一	宋纪六十九	(916)
卷第七十二	宋纪七十	(930)
卷第七十三	宋纪七十一	(942)
卷第七十四	宋纪七十二	(955)
卷第七十五	宋纪七十三	(968)
卷第七十六	宋纪七十四	(981)
卷第七十七	宋纪七十五	(994)
卷第七十八	宋纪七十六	(1008)
卷第七十九	宋纪七十七	(1020)
卷第八十	宋纪七十八	(1033)
卷第八十一	宋纪七十九	(1046)
卷第八十二	宋纪八十	(1059)
卷第八十三	宋纪八十一	(1072)
卷第八十四	宋纪八十二	(1085)
卷第八十五	宋纪八十三	(1099)
卷第八十六	宋纪八十四	(1112)
卷第八十七	宋纪八十五	(1126)
卷第八十八	宋纪八十六	(1139)
卷第八十九	宋纪八十七	(1151)
卷第九十	宋纪八十八	(1164)
卷第九十一	宋纪八十九	(1177)
卷第九十二	宋纪九十	(1190)
卷第九十三	宋纪九十一	(1203)
卷第九十四	宋纪九十二	(1217)
卷第九十五	宋纪九十三	(1229)

卷第九十六	宋纪九十四	(1242)
卷第九十七	宋纪九十五	(1256)
卷第九十八	宋纪九十六	(1269)
卷第九十九	宋纪九十七	(1283)
卷第一百	宋纪九十八	(1296)
卷第一百一	宋纪九十九	(1310)
卷第一百二	宋纪一百	(1323)
卷第一百三	宋纪一百一	(1336)
卷第一百四	宋纪一百二	(1350)
卷第一百五	宋纪一百三	(1363)
卷第一百六	宋纪一百四	(1376)
卷第一百七	宋纪一百五	(1389)
卷第一百八	宋纪一百六	(1402)
卷第一百九	宋纪一百七	(1415)
卷第一百十	宋纪一百八	(1427)
卷第一百十一	宋纪一百九	(1440)
卷第一百十二	宋纪一百十	(1454)
卷第一百十三	宋纪一百十一	(1468)
卷第一百十四	宋纪一百十二	(1481)
卷第一百十五	宋纪一百十三	(1494)
卷第一百十六	宋纪一百十四	(1507)
卷第一百十七	宋纪一百十五	(1521)
卷第一百十八	元纪一	(1535)
卷第一百十九	元纪二	(1548)
卷第一百二十	元纪三	(1562)
卷第一百二十一	元纪四	(1575)
卷第一百二十二	元纪五	(1589)
卷第一百二十三	元纪六	(1602)
卷第一百二十四	元纪七	(1615)
卷第一百二十五	元纪八	(1628)
卷第一百二十六	元纪九	(1641)
卷第一百二十七	元纪十	(1654)
卷第一百二十八	元纪十一	(1667)
卷第一百二十九	元纪十二	(1680)
卷第一百三十	元纪十三	(1693)

卷第一百三十一	元纪十四	(1705)
卷第一百三十二	元纪十五	(1718)
卷第一百三十三	元纪十六	(1731)
卷第一百三十四	元纪十七	(1744)
卷第一百三十五	元纪十八	(1757)
卷第一百三十七	元纪二十	(1782)
卷第一百三十八	元纪二十一	(1795)
卷第一百三十九	元纪二十二	(1807)
卷第一百四十	元纪二十三	(1820)
卷第一百四十一	元纪二十四	(1833)
卷第一百四十二	元纪二十五	(1846)
卷第一百四十三	元纪二十六	(1859)
卷第一百四十四	元纪二十七	(1872)
卷第一百四十五	元纪二十八	(1885)
卷第一百四十六	元纪二十九	(1899)
卷第一百四十七	元纪三十	(1913)
卷第一百四十八	元纪三十一	(1927)
卷第一百四十九	元纪三十二	(1941)
卷第一百五十	元纪三十三	(1954)
卷第一百五十一	元纪三十四	(1967)
卷第一百五十二	元纪三十五	(1979)
卷第一百五十三	元纪三十六	(1991)
卷第一百五十四	明纪一	(2005)
卷第一百五十五	明纪二	(2019)
卷第一百五十六	明纪三	(2032)
卷第一百五十七	明纪四	(2045)
卷第一百五十八	明纪五	(2059)
卷第一百五十九	明纪六	(2071)
卷第一百六十	明纪七	(2084)
卷第一百六十一	明纪八	(2097)
卷第一百六十二	明纪九	(2109)
卷第一百六十三	明纪十	(2122)
卷第一百六十四	明纪十一	(2134)
卷第一百六十五	明纪十二	(2148)
卷第一百六十六	明纪十三	(2161)

卷第一百六十七	明纪十四	.....	(2174)
卷第一百六十八	明纪十五	.....	(2187)
卷第一百六十九	明纪十六	.....	(2199)
卷第一百七十	明纪十七	.....	(2212)
卷第一百七十一	明纪十八	.....	(2225)
卷第一百七十二	明纪十九	.....	(2237)
卷第一百七十三	明纪二十	.....	(2249)
卷第一百七十四	明纪二十一	.....	(2262)
卷第一百七十五	明纪二十二	.....	(2274)
卷第一百七十六	明纪二十三	.....	(2286)
卷第一百七十七	明纪二十四	.....	(2299)
卷第一百七十八	明纪二十五	.....	(2312)
卷第一百七十九	明纪二十六	.....	(2325)
卷第一百八十	明纪二十七	.....	(2338)
卷第一百八十一	明纪二十八	.....	(2351)
卷第一百八十二	明纪二十九	.....	(2363)
卷第一百八十三	明纪三十	.....	(2375)
卷第一百八十四	明纪三十一	.....	(2388)
卷第一百八十五	明纪三十二	.....	(2402)
卷第一百八十六	明纪三十三	.....	(2415)
卷第一百八十七	明纪三十四	.....	(2428)
卷第一百八十八	明纪三十五	.....	(2440)
卷第一百八十九	明纪三十六	.....	(2452)
卷第一百九十	明纪三十七	.....	(2466)
卷第一百九十一	明纪三十八	.....	(2479)
卷第一百九十二	明纪三十九	.....	(2492)
卷第一百九十三	明纪四十	.....	(2504)
卷第一百九十四	明纪四十一	.....	(2518)
卷第一百九十五	明纪四十二	.....	(2532)
卷第一百九十六	明纪四十三	.....	(2544)
卷第一百九十七	明纪四十四	.....	(2557)
卷第一百九十八	明纪四十五	.....	(2569)
卷第一百九十九	明纪四十六	.....	(2581)
卷第二百	明纪四十七	.....	(2594)
卷第二百一	明纪四十八	.....	(2607)

---

卷第二百二	明纪四十九	(2620)
卷第二百三	明纪五十	(2632)
卷第二百四	明纪五十一	(2645)
卷第二百五	明纪五十二	(2659)
卷第二百六	明纪五十三	(2673)
卷第二百七	明纪五十四	(2686)
卷第二百八	明纪五十五	(2699)
卷第二百九	明纪五十六	(2712)
卷第二百十	明纪五十七	(2724)
卷第二百十一	明纪五十八	(2737)
卷第二百十二	明纪五十九	(2750)
卷第二百十三	明纪六十	(2763)
卷第二百十四	明纪六十一	(2776)
卷第二百十五	明纪六十二	(2789)
卷第二百十六	明纪六十三	(2803)
卷第二百十七	明纪六十四	(2817)
卷第二百十八	明纪六十五	(2830)
卷第二百十九	明纪六十六	(2843)
卷第二百二十	明纪六十七	(2857)
卷第二百二十一	明纪六十八	(2870)
卷第二百二十二	明纪六十九	(2884)
卷第二百二十三	明纪七十	(2897)
卷第二百二十四	明纪七十一	(2911)
卷第二百二十五	明纪七十二	(2924)
卷第二百二十六	明纪七十三	(2937)
卷第二百二十七	明纪七十四	(2950)
卷第二百二十八	明纪七十五	(2963)
卷第二百二十九	明纪七十六	(2976)
卷第二百三十	明纪七十七	(2989)
卷第二百三十一	明纪七十八	(3002)
卷第二百三十二	明纪七十九	(3016)
卷第二百三十三	明纪八十	(3030)
卷第二百三十四	明纪八十一	(3043)
卷第二百三十五	明纪八十二	(3057)
卷第二百三十六	明纪八十三	(3071)

---

卷第二百三十七	明纪八十四	.....	(3084)
卷第二百三十八	明纪八十五	.....	(3096)
卷第二百三十九	清纪一	.....	(3111)
卷第二百四十	清纪二	.....	(3124)
卷第二百四十一	清纪三	.....	(3138)
卷第二百四十二	清纪四	.....	(3152)
卷第二百四十三	清纪五	.....	(3166)
卷第二百四十四	清纪六	.....	(3179)
卷第二百四十五	清纪七	.....	(3192)
卷第二百四十六	清纪八	.....	(3206)
卷第二百四十七	清纪九	.....	(3219)
卷第二百四十八	清纪十	.....	(3233)
卷第二百四十九	清纪十一	.....	(3246)
卷第二百五十	清纪十二	.....	(3259)
卷第二百五十一	清纪十三	.....	(3272)
卷第二百五十二	清纪十四	.....	(3285)
卷第二百五十三	清纪十五	.....	(3299)
卷第二百五十四	清纪十六	.....	(3313)
卷第二百五十五	清纪十七	.....	(3326)
卷第二百五十六	清纪十八	.....	(3339)
卷第二百五十七	清纪十九	.....	(3353)
卷第二百五十八	清纪二十	.....	(3367)
卷第二百五十九	清纪二十一	.....	(3381)
卷第二百六十	清纪二十二	.....	(3394)
卷第二百六十一	清纪二十三	.....	(3408)
卷第二百六十二	清纪二十四	.....	(3422)
卷第二百六十三	清纪二十五	.....	(3436)
卷第二百六十四	清纪二十六	.....	(3450)
卷第二百六十五	清纪二十七	.....	(3464)
卷第二百六十六	清纪二十八	.....	(3477)
卷第二百六十七	清纪二十九	.....	(3491)
卷第二百六十八	清纪三十	.....	(3504)
卷第二百六十九	清纪三十一	.....	(3518)
卷第二百七十	清纪三十二	.....	(3531)
卷第二百七十一	清纪三十三	.....	(3544)

---

卷第二百七十二	清纪三十四	(3557)
卷第二百七十三	清纪三十五	(3570)
卷第二百七十四	清纪三十六	(3583)
卷第二百七十五	清纪三十七	(3597)
卷第二百七十六	清纪三十八	(3609)
卷第二百七十七	清纪三十九	(3622)
卷第二百七十八	清纪四十	(3635)
卷第二百七十九	清纪四十一	(3648)
卷第二百八十	清纪四十二	(3661)
卷第二百八十一	清纪四十三	(3674)
卷第二百八十二	清纪四十四	(3687)
卷第二百八十三	清纪四十五	(3700)
卷第二百八十四	清纪四十六	(3714)
卷第二百八十五	清纪四十七	(3728)
卷第二百八十六	清纪四十八	(3740)
卷第二百八十七	清纪四十九	(3754)
卷第二百八十八	清纪五十	(3767)
卷第二百八十九	清纪五一	(3780)
卷第二百九十	清纪五十二	(3793)
卷第二百九十一	清纪五十三	(3807)
卷第二百九十二	清纪五十四	(3821)
卷第二百九十三	清纪五十五	(3835)
卷第二百九十四	清纪五十六	(3849)
卷第二百九十五	清纪五十七	(3862)
卷第二百九十六	清纪五十八	(3875)
卷第二百九十七	清纪五十九	(3887)
卷第二百九十八	清纪六十	(3900)
卷第二百九十九	清纪六十一	(3912)
卷第三百	清纪六十二	(3926)
卷第三百一	清纪六十三	(3939)
卷第三百二	清纪六十四	(3953)
卷第三百三	清纪六十五	(3967)
卷第三百四	清纪六十六	(3980)
卷第三百五	清纪六十七	(3992)
卷第三百六	清纪六十八	(4005)

卷第三百七	清纪六十九	.....	(4019)
卷第三百八	清纪七十	.....	(4032)
卷第三百九	清纪七十一	.....	(4045)
卷第三百十	清纪七十二	.....	(4058)
卷第三百十一	清纪七十三	.....	(4071)
卷第三百十二	清纪七十四	.....	(4084)
卷第三百十三	清纪七十五	.....	(4097)
卷第三百十四	清纪七十六	.....	(4111)
卷第三百十五	清纪七十七	.....	(4124)
卷第三百十六	清纪七十八	.....	(4138)
卷第三百十七	清纪七十九	.....	(4151)
卷第三百十八	清纪八十	.....	(4164)
卷第三百十九	清纪八十一	.....	(4178)
卷第三百二十	清纪八十二	.....	(4192)
卷第三百二十一	清纪八十三	.....	(4206)
卷第三百二十二	清纪八十四	.....	(4219)
卷第三百二十三	清纪八十五	.....	(4232)
卷第三百二十四	清纪八十六	.....	(4245)
卷第三百二十五	清纪八十七	.....	(4259)
卷第三百二十六	清纪八十八	.....	(4272)
卷第三百二十七	清纪八十九	.....	(4285)
卷第三百二十八	清纪九十	.....	(4298)
卷第三百二十九	清纪九十一	.....	(4311)
卷第三百三十	清纪九十二	.....	(4325)
卷第三百三十一	清纪九十三	.....	(4339)
卷第三百三十二	清纪九十四	.....	(4352)
卷第三百三十三	清纪九十五	.....	(4365)
卷第三百三十四	清纪九十六	.....	(4380)
卷第三百三十五	清纪九十七	.....	(4394)
卷第三百三十六	清纪九十八	.....	(4408)
卷第三百三十七	清纪九十九	.....	(4422)
卷第三百三十八	清纪一百	.....	(4436)
札记	.....	(4451)	

## 卷第一

【补《资治通鉴》附录一】起重光作噩，尽旃蒙协洽。

### 辽初述略上

#### 唐天复元年

契丹以耶律阿保机为夷离堇。

论曰：辽初事迹，《通鉴》本书所述不详。予惟辽雄据燕北，历二百年，金、元相继，是与北朝相当也，事虽简约，而一代规模具矣。今以宋、辽、金、蒙事并重，辽初事不述则无以载一代经纬，故参订诸书，编年纪事，以《通鉴》之未载者于卷首补述之。

契丹地东距高丽，西奚，南营州，北靺鞨、室韦，阻冷陉山。其先祖奇首始徙潢水之滨，称可汗，奇首生八子，其后族属渐盛，至唐时析为八部，居松漠之间，每部皆有帅。唐万岁通天间，松漠都督李尽忠、归诚州刺史孙万荣反叛兵败，契丹内残，部众凋散。开元末，部人雅里者，又称涅礼，杀北平王、松漠都督李过折，推举遥辇氏迪辇俎里者为可汗，是为祖午可汗。祖午天宝初来归，玄宗封为松漠都督、崇顺王，赐名李怀秀，怀秀重析其部众为迭刺、品、突举、突吕不、乙室、楮特、乌隗、涅刺八部，雅里统迭刺部，世掌军政，称夷离堇。其后中原衰乱，契丹寢大。怀秀数传至痕德堇可汗钦德，光启中，钞掠奚、室韦诸部，役服之，乘中原多故，时入盗边。

雅里曾孙释鲁为遥辇氏于越，于越，契丹贵官也，非有大功业者不授。释鲁贤而有智，北征突厥、室韦，南略易、定、奚、霫，始兴板筑，置城邑，教民种桑麻，习织组，有广土众民之意。始，契丹岁贡于突厥，至是始免。释鲁弟撒刺的为夷离堇。阿保机，撒刺的子也。雄武而智，善骑射，少有大志。初为挞马狼沙里，参与部族事，后伐越兀及乌古、六奚、比沙狼诸部，有功，国人号阿主沙里，父祖意也。痕德堇可汗晚年政衰，至是，以阿保机为夷离堇，专征讨，破室韦、于厥诸部，俘获甚众。

契丹初无姓，各以所居地名之，迭刺部近汉边，濡汉习，至是始以所居世里地为姓，称耶律，阿保机自取汉名为亿，其妻述律月理采取汉名为